

東京MOT6大学連合シンポジウム



動き出した技術経営・MOT大学院～東京MOT6大学連合～



芝浦工業大学大学院
工学マネジメント研究科



2005年9月27日

アメリカと日本との間には、その経済に匹敵するほどの技術格差は存在しません。技術を俯瞰できたり、戦略を構想できる人材、つまり、MOT教育を受けた人材が日本には不足していたのです。

本資料の著作権は、東京MOT6大学連合に帰属します。

概要

大学院概要

募集定員:	28名														
履修年限:	2年														
必要単位:	40単位														
学位:	技術経営修士(専門職); Master in Management of Technology (Professional)														
授業時間:	平日夜間、土曜日														
出願/選考日程:	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1次入試</th> <th>2次入試</th> <th>3次入試</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出願 受付</td> <td>2005.11.1 ~ 2005.11.26</td> <td>2005.11.1 ~ 2006.2.4</td> <td>2005.11.1 ~ 2006.2.25</td> </tr> <tr> <td>試験 日</td> <td>2005.12.4</td> <td>2006.2.12</td> <td>2006.3.4</td> </tr> </tbody> </table>				1次入試	2次入試	3次入試	出願 受付	2005.11.1 ~ 2005.11.26	2005.11.1 ~ 2006.2.4	2005.11.1 ~ 2006.2.25	試験 日	2005.12.4	2006.2.12	2006.3.4
	1次入試	2次入試	3次入試												
出願 受付	2005.11.1 ~ 2005.11.26	2005.11.1 ~ 2006.2.4	2005.11.1 ~ 2006.2.25												
試験 日	2005.12.4	2006.2.12	2006.3.4												

特色

- MOTの学位を取得できる日本初の専門職大学院であり、芝浦工業大学が約80年にわたって培ってきた工学教育をベースに設けられています。
- 実務と理論を有機的に融合した実理融合型教育を行います。
- 学外との連携を重視し、教育現場で有効に活用します。
- 多種多彩な職種、業種の実務経験者による多様な発想の集約で高い教育効果を実現します。

特徴

1

工学ベースのMOT

ビジネススクールあるいは経営工学の延長線上ではない、工学ベースの文理融合型科目群で、技術経営力を養成

2

実理融合の専門教育

現実の問題解決を主眼とし、各分野の実務経験者と、理論の体系化に精通した教員が共同で教育・研究に臨む

3

外部との連携

- 新しく設立した技術経営研究センターを通じ学外と共同研究
- 米国のRensselaer Polytechnic Instituteや英国のImperial Collegeとの教育交流

4

学生の特徴

- 学生のほとんどは、主に企業などで働く社会人
- 多様な経験、知見と、異質な発想、問題意識で「知の交流」を広げる
- 生きた異業種交流と高い教育効果

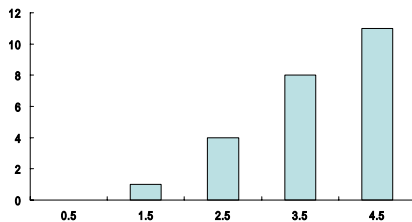
5

MOT教材開発

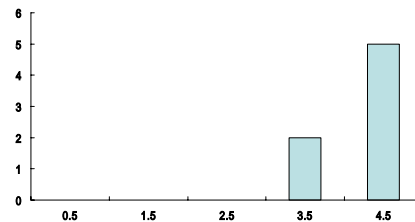
- 文科省からの支援(専門職大学院形成支援)を受け、MOT教材のデファクト・スタンダードを開発
- E-learningを試行

授業評価(2003年前期・集計結果)

全体



マネジメント系(常勤のみ)



MOT人材のロールモデル

- **ステップ・アップ事例-1: 40歳代前半**
 - 協和発酵の医薬研究センター主任研究員から、本社・経営企画部主査へ配転、抜擢
- **ステップ・アップ事例-2: 60歳代**
 - 日鉱マテリアルズの子会社社長に意向中であったが、MOT 在籍中に親会社へ復帰し、CTOになる
- **転籍事例-1: 30歳未満**
 - 本研究科に進学するため日本工営を退社。学業に専念、修了後の2005年7月に調査・研究会社に再就職
- **転籍事例-2: 40歳代前半**
 - 昭和システムエンジニアリングからバンクテック・ジャパン(株)へ転籍

専門職大学院等形成支援プログラム(2004年度)採択課題

主査	研究課題
児玉文雄	日本産業再生と技術開発戦略 - MOTにおける基本概念 -
	持続的イノベータの行動分析 エクセレントカンパニーの技術戦略の持続性
	製品アーキテクチャのマネジメント - モジュール化がパソコン、自動車、工作機械産業に与えた影響 -
	科学技術・イノベーション政策の展開 日米間に見る政策・システム・重点分野の競争と共進化
岡本久吉	プロパテント時代の企業の知的財産権戦略 その具体的なフレームワークと実践事例分析
	日米経営者比較を通しての日本の新しい経営者像の追求 経営者に求められる資質、教育、企業内キャリアパス
枝井通晴	新規事業育成の過程における特許および財務戦略 ベンチャー企業の立ち上げと発展段階における経営課題
	管理会計 - 管理会計における企業ブランドの価値分析 -
渡辺 孝	ハイテックスタートアップ ハイテクベンチャー創業のための事業計画策定 プラットフォーム型バイオテクノロジーの事業化戦略 バイオ事業の基礎から事業化への課題
西村克己	システム開発のためのプロジェクトリーダー育成論 CMMIをフレームワークとしたプロジェクトマネジメント論
玄場公規	日本製造業のビジネスモデル戦略
吉久保誠一	技術と経営とデザインのベストミックス戦略
藤田和男	エネルギーポリティクス 世界の石油資源戦争の恐れと日本の対応
	燃料電池の動向調査と企業化戦略 水素エネルギーシステム社会を拓く企業連携 国際開発マネジメント 貿易立国日本の海外開発プロジェクトと国際協力支援活動のあり方
嶋矢志郎	経済のグローバル化と企業インフラ化戦略 多国籍企業の社会的責任
	CSRのグローバル化と企業インフラ化戦略 国連GCIへの参加企業の事例研究 環境経営度と企業実績度の相関分析 企業の経済価値と環境共生の位相と変容
柴田順二	生産加工システム ディーゼルエンジン部品加工のFMS化